

法政大学大学院  
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	人文科学研究科 国際日本学インスティテュート 修士課程《外国人》	2026年度 秋季
小論文 (日本語)		

《解答又は解答例》

問1 筆者は言語学者だが、筆者を含む言語学者たちの、言葉の意味や規則を明らかにしようとする努力が、コンピュータに言葉を使わせる上ではあまり役に立っていないことを、筆者は残念に思っている。(90字)

問2 例① ソフィアが言葉を理解していないと筆者が主張する根拠は、ソフィアが使用しているのが会話の実例から発見されたパターンであるということである。しかし、この主張には、「意味はパターンではない」という前提がある。ということは、「言葉の意味とはパターンである」という意味観を前提にすれば、筆者の主張は間違っていることになる。これはつまり、どのようなものを人工知能が使えば言葉の意味を理解したと言えるかは、言葉の意味とは何だと考えるかに依存する。よって、「言葉の意味とは何か」という問いへの答えが明らかにされない限り、この設問自体が不適切である。(266字)

例② 筆者の主張は、ChatGPT や DeepSeek などの生成 AI よりも前の人工知能に基づいているが、パターンの発見しかしていないという点では、そういった生成 AI も同様である。なので、やはり人工知能に言葉の意味の理解は不可能であるように、一見、思える。しかし、ソフィアや ChatGPT、DeepSeek などのような人工知能が可能になることを想像できた人は、数十年前にはいなかったはずである。想像不可能なことが実現したという実例があるのだから、今後、人間と同じように言葉の意味を理解する人工知能が実現不可能だとは、必ずしも言えない。(268字)

例③ 確かに、機械に理解できる言葉もあるだろうが、それは、人間が理解できる言葉の一部に過ぎない。例えば、言葉には、感情を表すものもある。懐かしさを表す言葉を理解するためには人生経験が必要だし、死への恐怖を表す言葉を理解するためには生命を持っている必要がある。そのため、人生経験や生命のない機械には、原理上、そのような言葉は理解できないだろう。つまり、機械には理解できない言葉があるのだ。一部の言葉しか理解できないなら、それは「言葉の意味を理解」したことにはならないのだから、「言葉の意味を理解する人工知能」は実現できないと考える。(262字)

《出題の意図》

大学院での学びに必要なレベルの日本語がきちんと読めること、修士論文執筆に十分な日本語能力があることを確かめる。